

資源管理型漁業推進総合対策事業調査（第Ⅱ期）

（広域回遊資源：日本海北ブロック）

（抄 録）

天然資源調査：山田 嘉暢、佐藤 恭成、小泉 広明

栽培資源調査：山内 高博

1. 天然資源調査（ムシガレイ）

本事業は平成8年度までに、指針を策定することにしており、初年度である平成6年度は、漁業実態の把握を主な目的とし、漁獲統計資料の整理と市場調査による生物特性値の推定を行った。

(1) 漁獲統計調査

1) 青森県日本海沿岸におけるカレイ類の経年変化

昭和35年から42年にかけては150トン前後で増減していた。昭和51年には、過去最高の606トンを経験した。しかし翌年以降減少傾向を示したが、昭和59年以降増加し、昭和61年には408トンまで回復した。その後は漸減傾向を示し、平成6年は262トンまで減少した。

2) 平成6年青森県日本海沿岸におけるムシガレイの月別漁法別漁獲量

平成6年におけるムシガレイの漁獲量は8,020kgで、漁法別では、定置網（底建網を含む）4,158kg（51.8%）、刺網1,974kg（24.6%）、沖合底曳網1,887kg（23.5%）であった。

(2) 魚体測定調査

平成6年1月から12月までに鰺ヶ沢、大戸瀬漁協で水揚げされたムシガレイについて精密測定を行った。漁獲されたムシガレイは、雌雄とも22cmから32cmの個体が多く、耳石を用いて年齢査定した結果、4歳から6歳の個体と推定された。また雌雄別に、G S I（生殖腺重量指数）の月別変化を調べた。雌は全長23cmから、雄は全長19cmから成熟するものと思われた。G S Iの雌雄別月別変化から日本海沿岸域でのムシガレイの産卵期は5月から6月頃と推定された。

(3) 稚仔魚分布調査

未成魚の成育場所、成長等を調査するため鰺ヶ沢町出来島沖で、稚仔魚分布調査を行った（水深20～100m）。採集漁具は、沿岸域では桁網、沖合域はビームトロールを用いた。計6回の調査を行ったが、ムシガレイの幼魚は採集されなかった。

2. 栽培資源調査

(1) 漁獲統計調査

1) タイ類漁獲量の経年変化について

本県日本海側における漁獲量は、昭和39年以前には350 t 前後であった。その後漁獲量は減少傾向を示しながら、昭和56年まで100 t ～200 t の範囲で推移したが、以降、さらに減少を続け昭和63年には30 t と最低を記録した。しかし、平成元年以降増加の兆しを見せ、平成6年には127 t となった。

発表誌名：平成6年度広域資源管理型漁業推進総合対策事業報告書 平成7年3月 青森県（日本海北ブロック）

2) タイ類漁業種類別漁獲量

平成6年における漁業種類別漁獲量は、定置網（主に底建網）が83.9%、次いで沖合底曳網が3.7%となり、この2漁業種類で87.6%を占めた。またその他には、刺網が3.5%、釣りが2.4%となった。

3) マダイ銘柄別漁獲量、漁獲金額、漁獲尾数

大戸瀬漁協における平成6年のマダイ銘柄組成は、漁獲量では3P（15cm未満）の割合は24.9%と比較的低い値を示したものの、漁獲尾数では62.2%と高い値を示した。しかし、漁獲金額では同銘柄の割合は2.4%しかなく、半1（0.8～1.5 kg）からP（18cm～22cm）の5銘柄で全体の88.6%を占めた。

(2) 市場調査

1) マダイ率（タイ類漁獲物に占めるマダイの個体数割合）

平成6年4～12月については、各銘柄のうち特大（6kg以上）～半1にかけてはマダイ率は100%であるが、半2（0.4～0.8kg）から3Pにかけては、銘柄が小さくなるほどマダイ率が低下する傾向を示した。月別に見ると4～6月の3Pのマダイ率が29.7%と最も低い値を示した。

(3) 魚体測定調査

平成6年4月～12月に漁獲されたマダイから採鱗し、輪紋による年令査定を行った結果、全期間とも1才魚と2才魚が主体であった。その占める割合は、4～6月は97.0%、7～9月は76.7%、10～12月は94.3%であった。なお、0才魚の漁獲はこの期間を通じてなかった。